

たじみん昼話 66

探究の成果を見た、ききょうのはなし

2月18日の6・7限目に、二年次生の総合的な探究の時間の学年発表会に参加した。全部を見ることはできなかったが、全部の発表を視聴した来賓の感想を聞く限り、全ての発表が、将来を期待させる素晴らしいものだったことがわかる。

探究学習の結びとして、ききょうが全校生徒に伝えた話は、以下の通りだ。

「今ここにいるすべての人が、将来社会で働くことになるだろう。ところで、働くとはどういうことだろう。これからの世の中で、働くためにはどんな能力が必要なのだろう。10秒で考えて、思いついたものを紙の端っこに書いてください。

ききょうが考える「働く」とは、「皆が困ったな、あったらいいな」という課題を見抜き、解決していくことだ。そしてそのために必要な力は、「課題や仮設定力」、「分析力」、そして、「創造力」だ。

二年次生の全員が行ってきた探究は、まさにこの社会で生きていくための疑似体験だ。発表内容を見る限り、どのグループもその体験を受け止め、社会で生きていく力の構築に成功していたことがわかった。それは、各グループとも、それぞれの視点で課題を見つけ、上手に解決を図っていたからだ。また、わかりやすく情熱のこもった素晴らしい伝え方ができていたからだ。

この成果を得たのは発表した人だけではなく、今回参加した全員が成果を得ている。それは、聞いていた人たちも、様々な見方や考え方に触れたことで、各自の思考方法の構築に成功したと考えられるからだ。

ただし、それが成立するためには一つ条件がある。

この発表で終わりとするのではなく、これからも生活や学習活動の中で、課題を見つけて熟考することを継続していくことだ。このことは、3年で進路を考えるときに、必ず役立つ。引き続き、社会の中でどう生きるかの答えを考え続けながら、残りの高校生活を過ごして行って欲しいと思う。」

これからも期待をしている。多治高2年次生の諸君。